

平成 26 年度「新入生の生活に関する調査」

第 5 回 「どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・希望しているか」

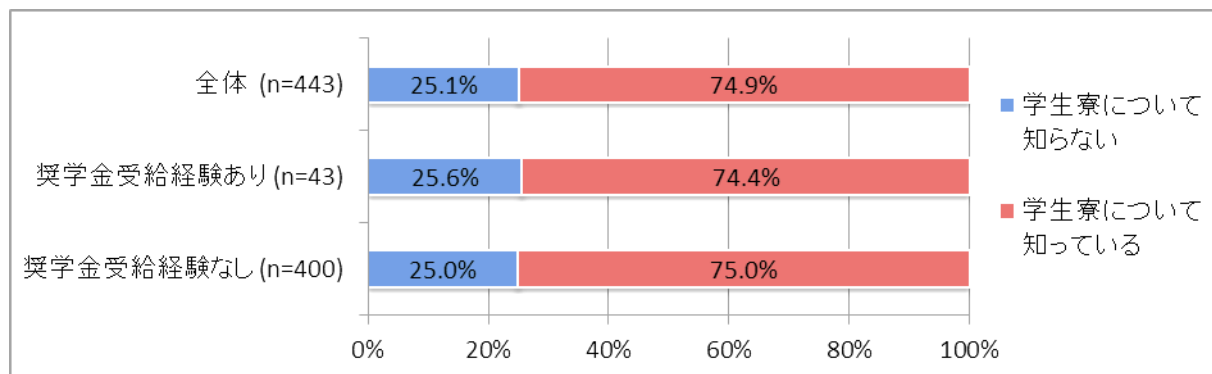
前回は「どのような新入生と保護者が奨学金を認知・希望しているか」についてご報告しました。その中で、新入生、保護者ともに、過去に奨学金の受給経験がある者、学生寮について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高いことが示されました。そこで、今回は新入生と保護者の学生寮の認知や希望についてご報告したいと思います。また、学生寮の認知について、過去 3 年のデータとの比較を行いました。合わせてご覧ください。

1. 新入生の結果

まず新入生の学生寮の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者とならない者とで、学生寮の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では 74.9%の新入生が大学奨学金について認知していることがわかりました。昨年度と比べて、全体の割合では大きな変化はみられませんでした。

奨学金受給経験と学生寮の認知（報告書 p.58）



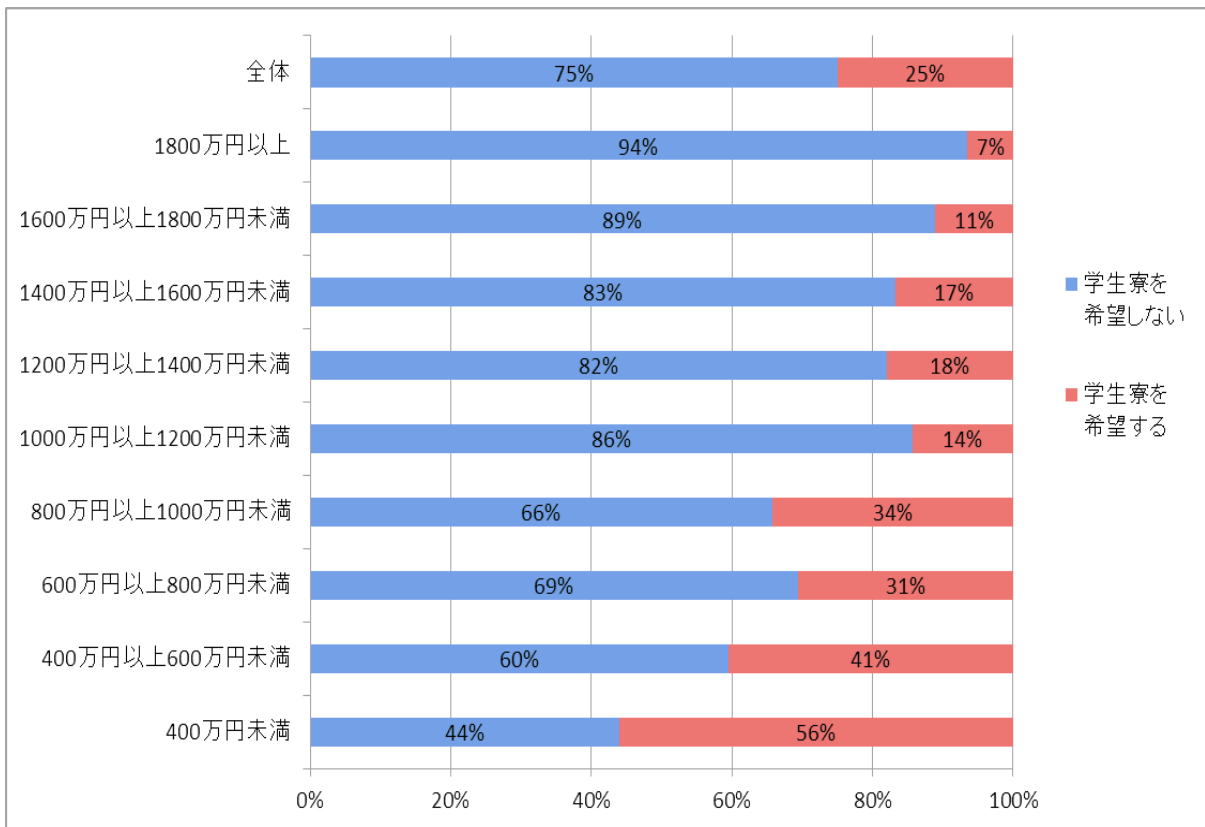
2. 保護者の結果

(1) 世帯年収が少ないほど、学生寮を希望している

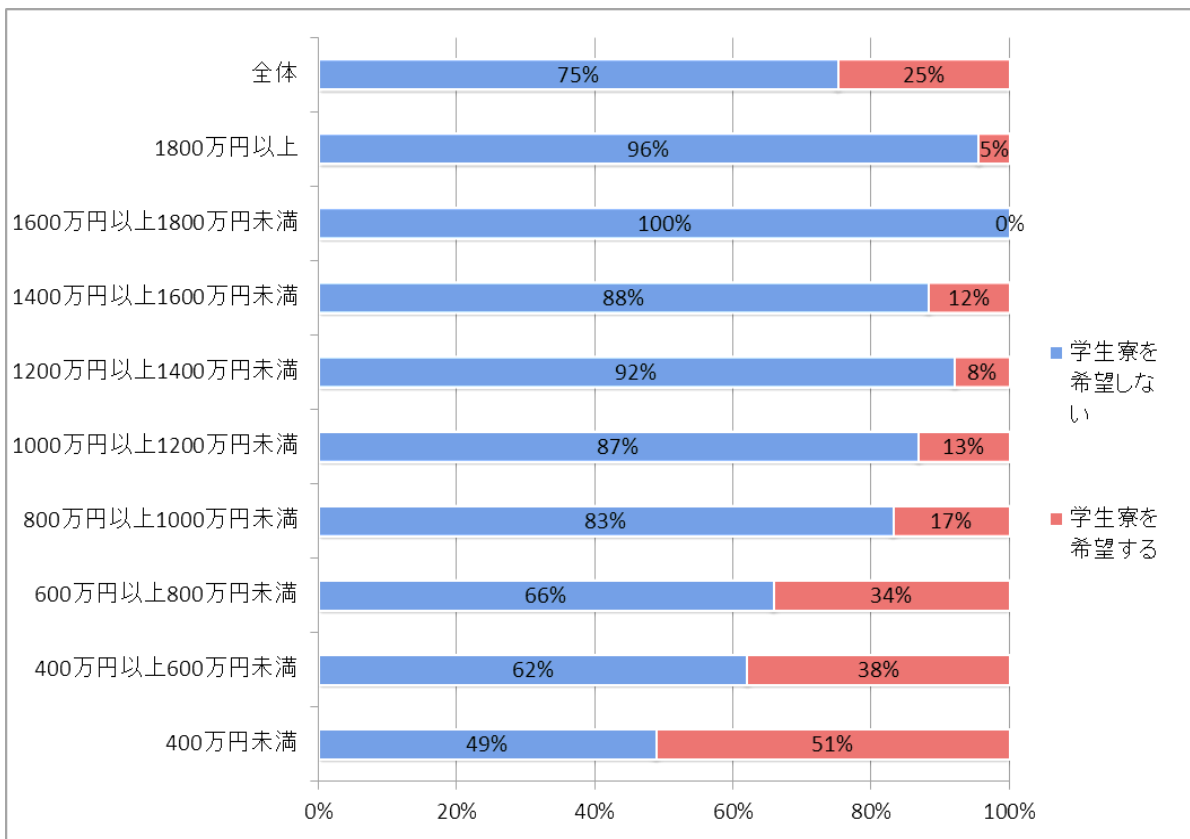
世帯年収と学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、学生寮を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、学生寮を希望する割合が低いことがわかりました。学生寮の希望する割合が半数を超えるのは、昨年度は年収 400 万円以上 600 万円未満の 52%でしたが、今年度は 400 万円以下の 56%となっています。また、家計支持者の年収との関連についても、世帯年収と同様の結果となりました。

世帯年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.60）



家計支持者の年収と学生寮への入寮希望（報告書 p.61）

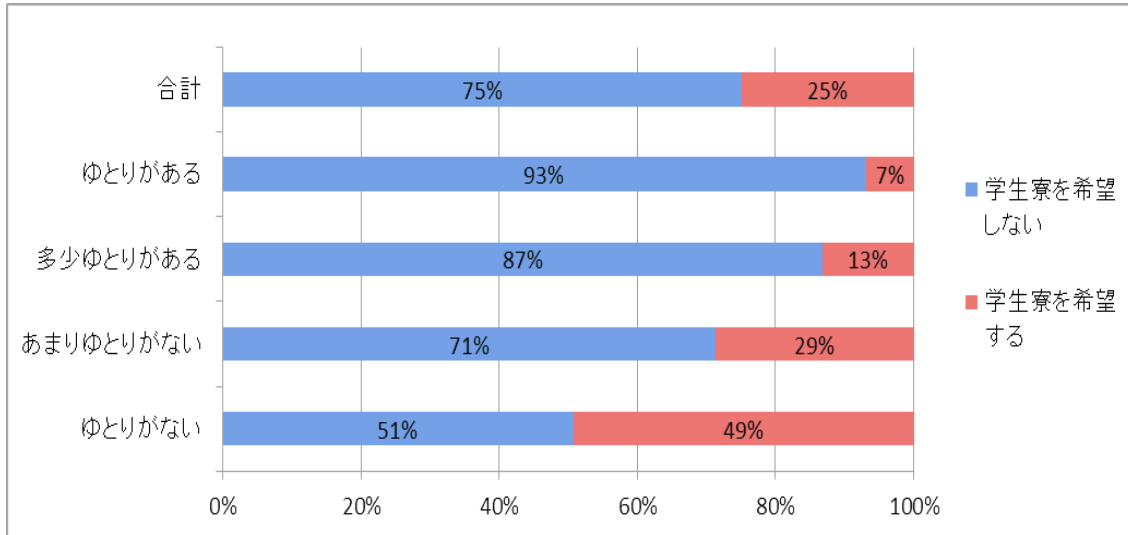


(3) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、学生寮を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと学生寮の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が低いことがわかりました。

入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望（報告書 p.63）

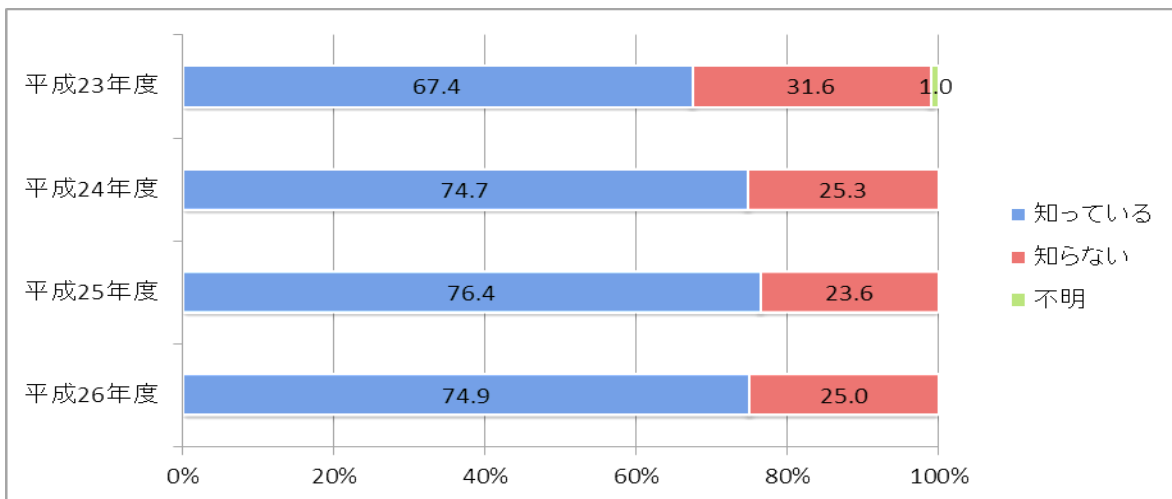


3. 学生寮の認知と希望について、4年間の比較

(1) 新入生の学生寮認知について

新入生の「学生寮の認知」の割合は、「知っている」74.9%、「知らない」25.1%となっており、昨年度の「知っている」76.4%、「知らない」23.6%に比べて、大きな変化は見られませんでした。過去3年と比較した場合についても、大きな変化は見られていないことがわかります。

新入生の学生寮認知の比較（報告書 p.67）

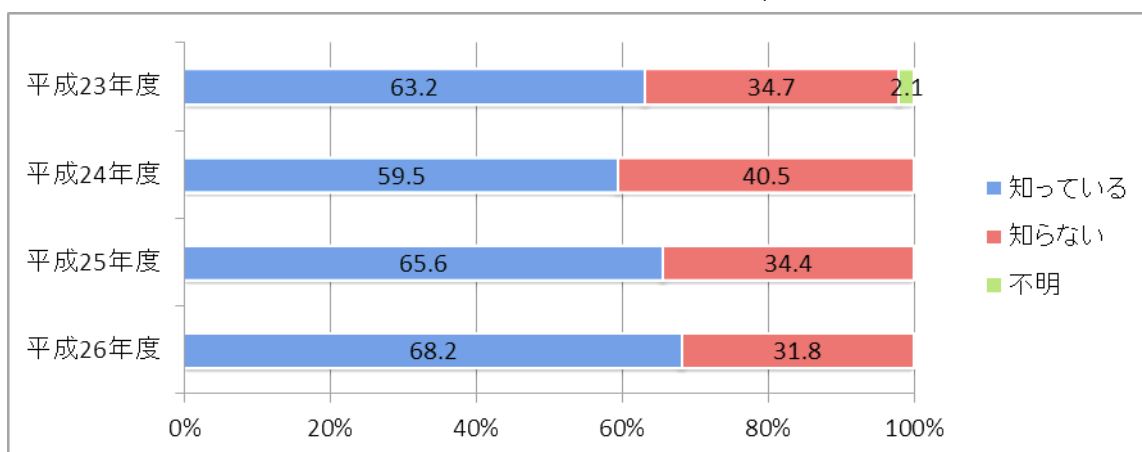


(2)保護者の学生寮認知・希望について

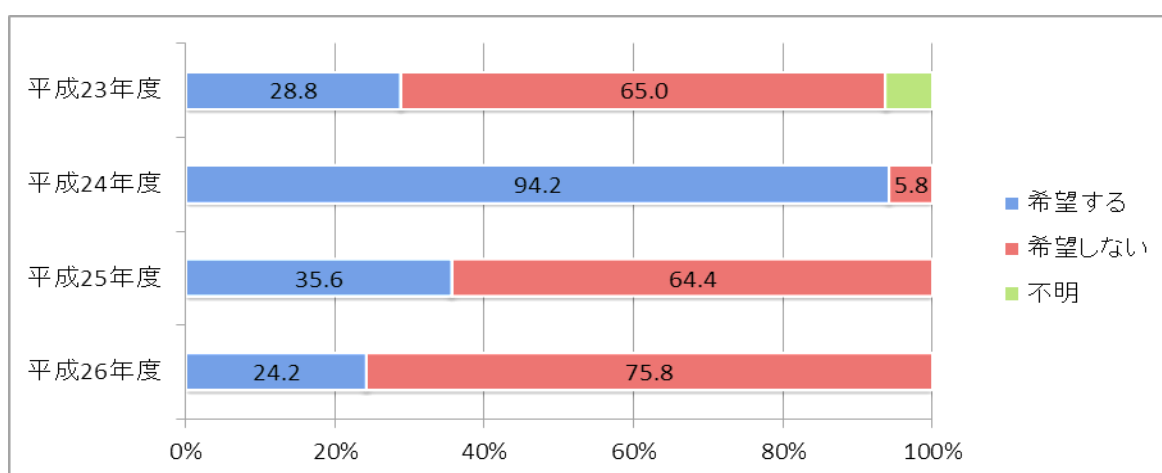
保護者の「学生寮認知」の割合は、「知っている」68.2%、「知らない」31.8%という結果になりました。過去3年と比較した場合に、今年度の学生寮の認知の割合が一番高いことがわかります。

保護者の「学生寮の希望」の割合は、「希望する」24.2%、「希望しない」75.8%となっており、昨年度の「希望する」35.6%、「希望しない」64.4%と比べると、希望する割合が11.4ポイント減少していることがわかります。過去3年と比較した場合について、平成24年度以外は毎年30%前後の割合で、学生寮を希望していることがわかります。学部生対象の学生寮のうち、お茶大SCCは申込時に、自宅からの距離による制限はありませんが、所得による制限があります。また国際学生宿舎は経済的困窮度の高い者から入寮の許可していることもあり、必ずしも希望する者が全員入寮できるとは限りません。入寮を希望していながらも、入寮ができなかった学生への支援が必要とされます。

保護者の学生寮認知の比較（報告書 p.68）



保護者の学生寮希望の比較（報告書 p.68）



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）